

2023年度
保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果（公表）

公表：2024年 3月 15日

事業所名 児童発達支援事業所Tossie 保護者等数(児童数) 9 回収数 9 割合 100 %

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	9				・広いわけではないが、活動時は物を片付けたたりしている。空間をうまく使っているように思う。	定員10名に対して全体から見るとスペース的には狭いが、基準上は問題ない。スペースを区切ったり、活動をグループに分けるなど工夫している。状況次第で、個室での個別支援も行っている。天気の良い日には、屋外で活動する事を基本としている。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	9				・足りないと感じることはない。足りない日は給食をお弁当に変更し、安全を第一に確保しているのだと思っているので、不満はない。	管理者1名・児童発達支援管理責任者2名・児童指導員1名の配置基準に加えて保育士を常勤換算で1名以上多く配置し、専門的な支援をしている。さらに5年以上継続して勤務する児童指導員を常勤換算で1名配置し、専門的支援加算の対象となっている。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境*1になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	9				・子どものロッカーに本人の写真を貼っていて視覚的に分かりやすくなっていると思う。玄関以外にも鍵がつけられていて、安心できる。	個人ロッカーに写真を貼り、視覚でわかりやすく工夫している。段差はなくバリアフリーになっており、各部屋、トイレ、お風呂全てに鍵をかけて安全を確保している。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	9				・活動室もトイレもとても清潔に保たれている。玄関もいつもきれいだと感じる。木の温もりがとても落ち着く。	活動の中で、子ども達と職員と一緒に雑巾がけをしている。日当たりも良く、快適である。体を動かす活動の時には、椅子などを活動室の外に出す等、スペースを広く使えるように工夫している。また、活動に集中できるよう、おもちゃ等は必要に応じて室外から持ってきている。
	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、 <u>児童発達支援計画*2</u> が作成されているか	9				・本人の特性を理解させていて親にとってもわかりやすく、成長に合わせて課題も設定してくださっている。子どものできる・できないを客観的にみれて、親にとってありがたい。・毎回丁寧に個人面談をしていただき支援計画もしっかり作っていただいている。	児童のアセスメントシートを活用し、保護者からの情報を引き出すとともに、日々の活動での児童の様子を観察し、特記事項を記録し職員で共有している。それらを基に児童の実態を把握し、半年ごとに保護者との面談を交えながら個別の支援計画書を作成している。

適切な支援の提供	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	9			・子のその時の成長に合ったものだと思う。Tossieの支援計画はすごく丁寧でよくみていただいていると毎回思う。家庭でのこと、子以外の悩みや相談もしやすい。先生が親の顔色をみて何かあったかど気が付いてくれることも度々あった。	個々の発達支援はもちろんのこと、家庭内での相談等には随時対応している。現在地域支援は積極的には行っていないが、法人内の保育園との交流を積極的に増やしていきたい。児童発達支援ガイドラインはファイルに綴じ、玄関入り口付近に置き、いつでも閲覧できる。
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	9			・子どもそれぞれにあったものだと思う。会議もあると聞くので、職員間で情報共有はしっかりされているのと思う。	職員会議や職員ミーティングを通して、職員間で個別の情報を共有しているが、正規職員と非常勤職員のコミュニケーションに不足があり、支援の軸の統制を図れていない。
	8	活動プログラム*3が固定化しないよう工夫されているか	9			・外でのメニューが豊富。公園や散歩だけでなく、天気の良い日はプチ遠足があり、子どもがわくわくするような体験をさせてくれる。・室内でも外でも”ただおもちゃであそぶ”のではなく、目的があるのだと思っている。非日常的なイベントもあり、季節ごとに楽しみがある	日常の活動(リズムあそび・お散歩など)を大事にしながら、粘土あそび・絵の具あそび・シーツあそび等、感覚あそびも取り入れている。年長児は年間目標のもと「育ちの遠足」や「育ちの取り組み」も実施している。
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	4	3	2	・以前は交流があったようだが、コロナ以降難しくなってしまった。・コロナ禍ということあり難しいところではあるが、年長の取り組みとして保育園体験をさせてもらった。とてもよい経験になったので、今後も機会が持てると嬉しい。	コロナが5類に移行したこともあり、コロナ禍前のように法人内の保育園と定期的に交流していきたい。職員体制の都合や児童の特性も考慮し、今年度は年長児のみに限定している。夏場は保育園のプールあそびに出向く機会も設けた。
	10	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	9			・入所前の面談でしっかりと説明を受けている。	重要事項説明は、閲覧できるように常時掲示している。利用者負担についても、利用開始前の重要事項説明面談の際に、説明している。
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	9			・半年に一度、時間を作ってくれてとても丁寧な面談を行ってくれる。・半年に一度面談がある。電話での面談でも、対面でも時間をとってくれている。担当職員2人と話すことができるので、普段の情報共有にプラスでより詳しく子どもの様子を把握できる。	半年に1度個別支援計画に伴う個別面談を必ず行い、個別支援計画を保護者に示し、丁寧に説明し同意を得ている。
	12	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング*4等)が行われているか	8		1	・個人的相談した時も、子へのアプローチやアドバイスをもらうことができる。年4回の両親学級では毎度とても勉強になる。専門的な知識を親は持ち合わせていないため、先生たちから学ぶことはとても多い。・両親学級など開いていただき、親もとても勉強になる。	保護者懇談会(年1回)、両親学級(年4回)、就学相談会(年1回)を対面とオンラインを併用して開催した。保護者からの要望に応え、給食レシピも作成し、配布した。また写真と文章で構成した「子どもの育ち」も年2回発行して、保護者と職員間で子どもの発達について共有し合っている。

保護者への説明等	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	9			<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳以外にも、お迎え時に子どもの状況を詳しくフィードバックして下さる。 ・毎日の連絡帳は日中の様子もとても詳しくかかれており、送り迎えの際もしっかり共有できている。電話でささいなことも伝えて下さったり、情報共有は親からもできていると思う。 ・毎日の送迎の際に、必ず先生とお話する機会があり、その日の様子など伝えていただき安心する。 	毎日、連絡帳および児童送迎の際に保護者の方と情報を共有している。感染予防再徹底のために玄関先での児童受け渡しを行っている為会話の機会が減ってしまったため、「子どもを困む会」を開催して、保護者同士が情報交換できる場を設けている。
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	9			<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍では電話面談も取り入れてしっかり話すことができた。対面で面談ができるようになり、より話しやすくなった。 	随時、相談に適切に応じ、助言と支援を行っている。必要に応じて、対面での個別面談を設定した。
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	9			<ul style="list-style-type: none"> ・親子で参加し、ざっくばらんに話すことができる会が定期的にある。普段なかなか話すタイミングがないので、このような会は貴重でとてもありがたい。 ・年度初めの保護者会その他に子どもを困む会ができて親同士が交流できる機会がかなり増えた。両親学級も交流の機会となっている。 	保護者懇談会(年1回)、両親学級(年4回)、就学相談会(年1回)等で保護者同士の交流の場を設けている。また保育園の文集作成等、できる限りの協力をはかっている。
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	9			<ul style="list-style-type: none"> ・悩み事があるとすぐに話を聞いてくれる。 ・いつでも相談でき、個別に面談もして下さるので、精神的にかなり救われている。 ・とてもスピーディに対応していただいている。困り事はすぐ相談するようにしている。対応後の報告の際にいつも思うのは、子どもが自分のことを話されると嫌がるので、何も言わなくても子に聞こえないように配慮してくださったり、とても有難い。小さいことだが、子どものことを先生方皆さんがすごく考えてくれる。 	随時、必要に応じて対応している。苦情等に関しては玄関に意見箱を設け、直接申し出にくい事案についても、対応を整備している。
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	9			<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと先生のやり取りを目にすることがあるがわかりやすく(短く身振り手振りで)、伝えてくれている。そのため子どもも〇〇先生が言ってた～と話すので、理解しているのだと思う。 	児童に対しては言葉の表出も大切にしながら、ジェスチャーも併用して意志の疎通に努めている。保護者へは連絡帳や、必要に応じて電話等で連絡をするなど、情報の共有に努めている。

	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	9			・ホームページはととも見やすく、ブログが楽しみになっている。・毎日のブログで給食の内容や日中の様子を知ることができる。ホームページは新しくなってから見やすくなった。半年に一度の子どもの育ちと年長児遠足の活動報告も楽しみのひとつとなっている。写真付きで見るのが楽しみ。	毎日ブログにて活動内容や給食を発信している。また、今年も写真付きの活動報告「子どもの育ち」を年2回発行して、利用児童全員の育ちの姿を、全保護者が共有できた。必要に応じて「Tossieだより」も発行している。自己評価の結果は年1回、ホームページにて公表している。
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	9			・他のお子さんの名前を出さないなど、配慮されていると思う。	職員マニュアルを基に、職員に周知し、十分配慮している。
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	9			・定期的に避難訓練をしている。色々な状況を想定して実施していて、実際にTossieの外で大きい自身があった時、子どもが頭をおさえて机の下に自ら避難していた。訓練のお陰だと思った。	緊急時対応マニュアルを保護者にも配布し、定期的に避難訓練を行っている。大きな地震に備えてさらなる避難訓練が必要であると感じ、今年度からは月1回実施している。防犯マニュアル・感染症対応マニュアルは周知はしていないため、今後整備し周知に努める。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	9			・非常食の賞味期限も一人ひとりまとめてくれる。毎年チェックされている。	定期的に避難訓練を行っている。また非常時の食事も保護者からお預かりし、個別に管理している。
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	9			・母と離れることは嫌がるが、Tossieでの活動はととも楽しみにしている。・切り替えが苦手朝の支度が進まなかったが、Tossieへ行くのが楽しみになり、切り替えて行動できるようになった。・”楽しかった！”という日が増えた。笑顔で帰ってきてくれるととても嬉しく思う。	完全母子分離で6時間お預りする事業所であるため、お友達・職員と一緒に過ごす事に慣れると、児童本人も自信を持ち、楽しく活動に参加している姿が多く見られる。
	23	事業所の支援に満足しているか	9			・Tossieで心も体も大きく成長させていただいた。感謝でいっぱい。・とても手厚く、親も子ども安心して通える居場所です。・大満足です。上手い出来ない時も一緒に考えて下さり、乗り越えてきたと思っている。子どもの笑顔や話を聞いていて、手厚い支援をしていただいているのだと実感している。・とても熱心に寄り添った支援をしていただき、満足しています。	活動内容自体は生活を基盤にしている為、目に見えてわかりにくいですが、この生活が児童本人にとってまさに生活動作に直結し、自信に繋がり、「生きる力」となる。週6日Tossieでの毎日の積み重ねを通して、自分の意志で生活に参加し、それが一人ひとりの力となっている。

*1 この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすること。

*2 児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*3 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等にに応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

*4 保護者が子どもの行動を観察して障がいの特性を理解したり、障がいの特性を踏まえた褒め方等を学ぶこと。子どもが適切な行動を獲得することを目標としている。